

実践編

# 景観デザイン レビューの 進め方

## 「景観デザインレビューのススメ」の構成

「景観デザインレビューのススメ」は、景観デザインレビューに興味を持って頂けるように、「入門編」、「理念編」、「実践編」に分けてご紹介しています。

**入門編**では、景観デザインレビューとはどのようなものかを、分かりやすくお伝えします。**理念編**では、景観デザインレビューを実施するための心構えや協議、調整を行ううえで大切になる考え方を、いくつかの視点で解説します。**実践編**では、景観デザインレビューを実施する際の進め方や注意点等を、おすすめの方法として順を追ってご紹介します。

### 入門編：「景観デザインレビューって何？」

景観デザインレビューがどのようなものか、また、どのような場面でお役に立てるのかを、分かりやすくお伝えします。

### 理念編：「景観デザインレビューの心構え」

景観デザインレビューを取り組むにあたっての心構えとして、協議・調整を行ううえで、大切になる考え方や参加者の役割についてお伝えします。

### 実践編：「景観デザインレビューの進め方」(本冊子)

実際にどのように景観デザインレビューに取り組めば良いのか、具体的な方法をご紹介します。

1. 取り組む前に
2. 枠組みを整える
3. 景観デザインレビューを実践しよう

# 1. 取り組む前に

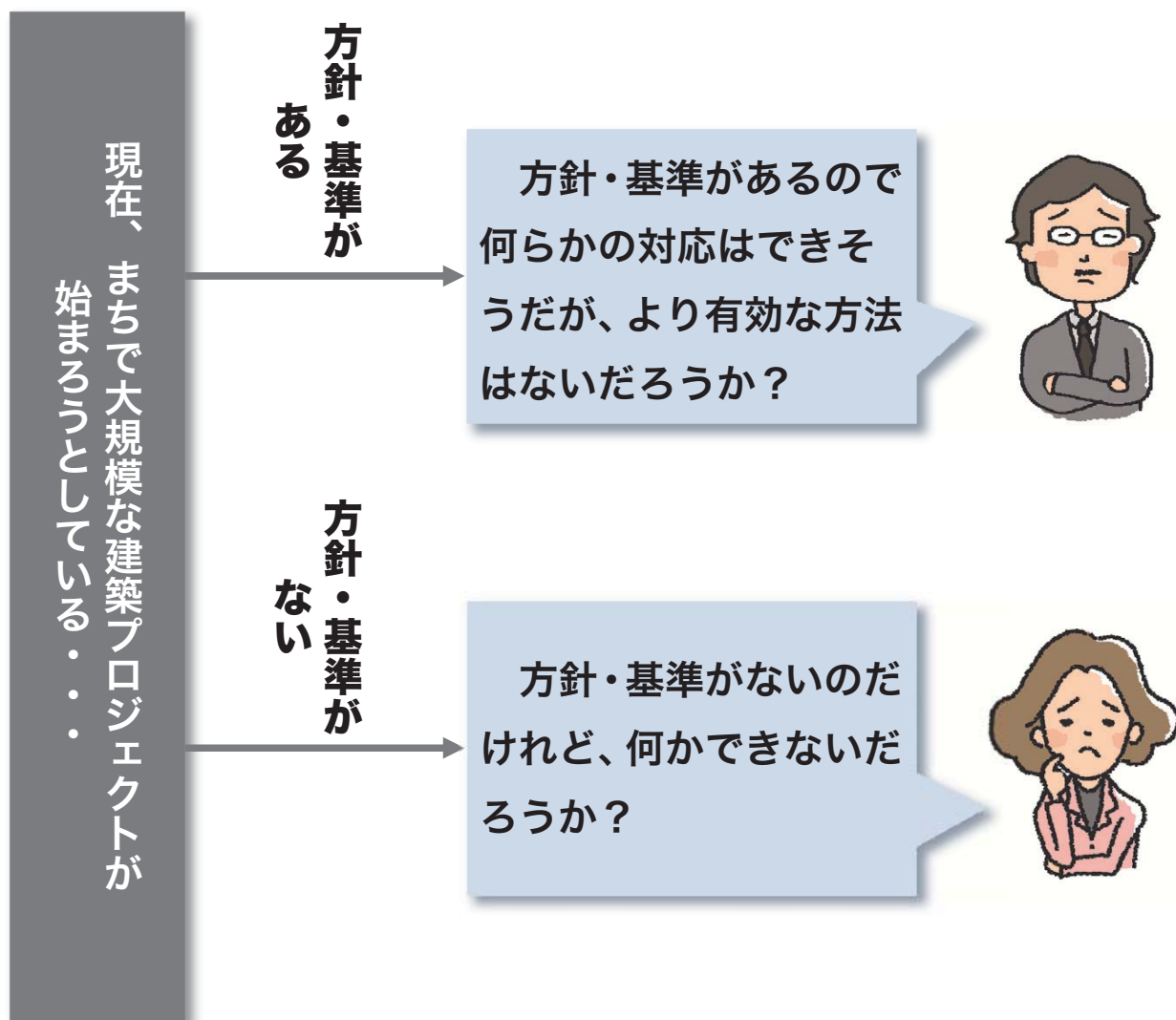


## あなたのまちは、今どんな状況ですか？



入門編、理念編と読み進めて、景観デザインレビューを実際に取り組むにはどうすればよいのかなと思われたのではないのでしょうか。

景観デザインレビューに取り組むにあたって、みなさんのまちはどのような状況ですか？



## このようなときに、景観デザインレビューに取り組んでほしいのです

大規模な建築プロジェクトが始まることになり、周囲のまち並みと調和しない、建物が建てられる状況に直面していませんか？

少しでもまちのために改善できる方法がないだろうかと考えている方に、景観デザインレビューをおすすめします。



### 景観デザインレビューに取り組んでみませんか？

本冊子では、具体的に取り組む前の枠組みや会議の準備、運営方法についてご紹介します。

地域の景観を少しでも良くするために、すでに仕組みがある地域も、仕組みがない地域も、それぞれの地域の状況を踏まえて、取り入れられそうな方法から始めてみてはいかがでしょうか。



## ポイント

- ・ **委員 5 名**（建築等の専門家だけでなく地域の代表者を含む）で各地区の委員会が構成され、**任期は 2 年で 1 度のみ再任可能**、報酬はなく、ボランティアで行われている。
- ・ 委員に求められる**資質**として、**シアトル市に居住し**、
  - ①建築・都市デザイン・開発プロセスに対する関心と知識
  - ②市のデザインガイドラインを基にプロジェクトを評価する能力
  - ③デザインレビューの場で効果的にヒアリングやコミュニケーションできる能力
  - ④デザインと地域の発展に対する情熱
  - ⑤プレッシャーのある中でもメンバー同士でうまく働ける能力が求められている。
- ・ デザインレビューの場では、**大判のグラフィックや模型やフォトモンタージュ、CG イメージによる説明**を求めている。
- ・ 市のデザインレビューの仕組みを紹介する**ホームページ**では様々な**情報**（デザインレビューの概要／目的・対象・コスト・プロセス）、案件の情報、委員に求められる職能、担当職員や委員の氏名や連絡先等）**が公開**されている。

### シアトル市のデザインレビュー概要

全市を 7 地区に分け、各地区で月に 2 回、市民（デザインや開発の専門家、地元の代表者等）によって構成されるデザインレビュー委員会によりデザインレビューが実施されている。

デザインレビューでは、全市及び地区別のデザインガイドラインを議論の拠り所としている。

参考：景観・デザインレビュー制度の高度化に向けた調査業務（建築等を通じた良好な景観形成・まちづくり推進協議会,2014）

## 2. 枠組みを整える



## 景観デザインレビューの対象にするか？しないか？

条例等で協議の対象条件を設定している場合には、その条件に基づくこととなりますが、ない場合にはそのプロジェクトを景観デザインレビューで協議する対象とどうか決める必要があります。その地域の他の建物と比較してまちなみの影響が大きいものであったり、公共施設や公的な補助金が使われている建物を対象に行うとよいでしょう。

### 景観デザインレビューの対象にすべき**建物の条件**

高さや延床面積が**一定の規模以上**の建物

中心市街地や歴史的な地区などの**特別な地区**の建物

**公共施設や公的な補助金**が使われている建物

---

#### ○一定の規模

高さ（例えば、20m以上）や延床面積（例えば、1,000㎡以上）が周囲と比較して突出する場合は、地域に与える影響が大きくなるので、その影響を少しでも抑える必要があります。数値基準を設定する場合は、地区の現状を良く踏まえたうえで定めてください。

#### ○特別な地区

歴史的な建物が保全されている地区やまちの顔となる中心的な地区などでは、その場所にふさわしい建物デザインを考える必要があります。

#### ○公共施設や補助金の支援

市民ホールなどの公共施設は、規模が大きいものが多く地域のシンボルとして、地域内の景観デザインを考えるうえで、お手本となる役割があります。市民の税金を使って建てられているため、誰もが使いやすいデザインであることが求められています。



## 景観デザインレビューには一定の経費がかかります！

将来的な空間や場所についてイメージを共有して、短い時間で質の高い議論を行うためには、現況データの整理や設計意図を理解するための資料が必要であり、それらを揃えるには経費がかかります。

基本的には、運営費用等は自治体、プロジェクトの図面や模型等は設計者や事業者が用意することになります。プロジェクト事業費の中から上手く捻出しながら進めることもあります。

### 当日の運営に必要な費用

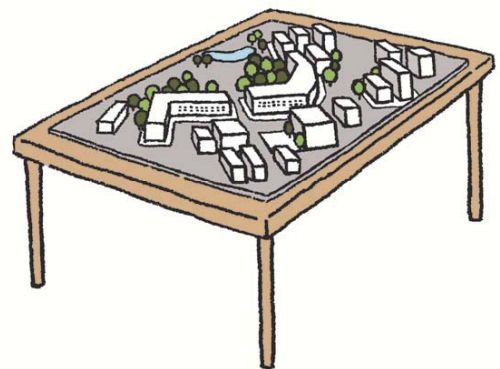
- ・ 専門家の交通費・謝金
- ・ 会場費

### 場所の理解に必要な費用

- ・ 現況データや現地調査の調査費

### 設計内容の理解に必要な費用

- ・ 図面の作成
- ・ プロジェクトの模型作成
- ・ CGやイメージパースの作成
- ・ 敷地周辺の模型の作成



有効な景観デザインレビューは、**地域の魅力**を**高めます**よ。



## 専門家の協力を得られるようにしましょう

景観デザインレビューを進めるために、第三者としての専門家に加わってもらうことはとても重要です。現在、相談できる専門家がない場合には、次の方法で探してみてもいいでしょうか。

### 専門家の探し方



都市計画審議会や景観計画の検討などで関わった建築や都市計画が専門の大学の先生はいませんか？

本や雑誌を読んで、話を聞いてみたいと思ったことのある建築や都市計画の専門家はいませんか？

地域の建築士会や建築士事務所協会などの会員で人脈の広そうな人はいませんか？

#### Column

#### 景観デザインレビューを地域の専門家とともに育てる

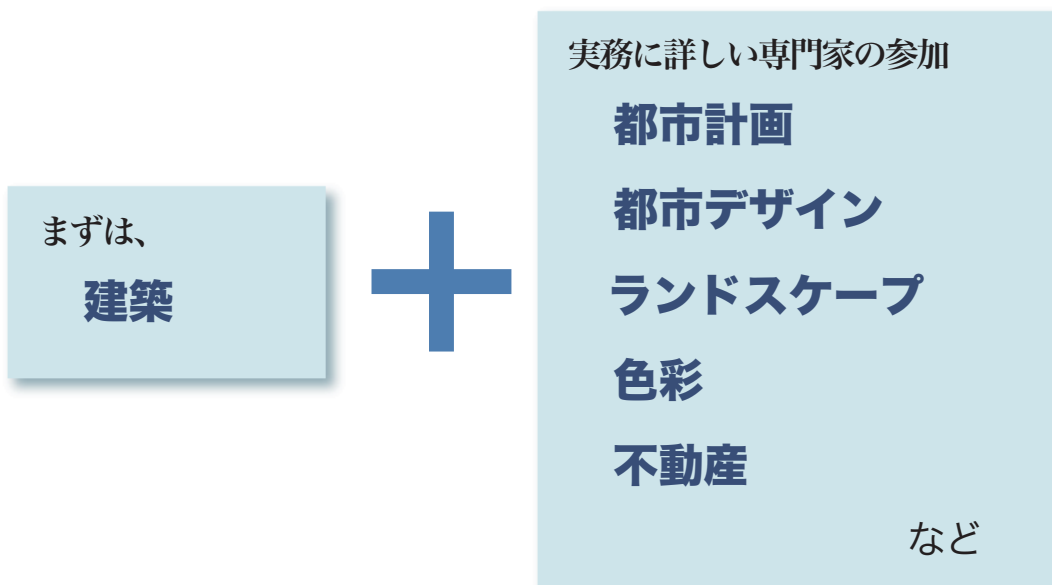
地域の外から有名な大学の先生などの専門家に来てもらうだけでなく、長く付き合ってくれる地元の専門家に加わってもらうことも大切です。ただし、最初は景観デザインレビューの主旨や目的を理解してもらえない方もいるかもしれません。

地域の建築士会や建築士事務所協会などの景観まちづくりに関心のある団体の協力を得て、勉強会から始めてみませんか？地域の専門家の育成とあわせて、景観デザインレビューを少しずつステップアップしてはどうでしょうか。

建築の専門家だけでなく、他分野の専門家もプロジェクトの内容に応じてメンバーを広げてはどうでしょうか。

その際、専門家は各分野において十分な実務経験があると、設計者や事業者との協議が進みやすくなります。

## 協議の際に必要な**専門家と分野**



### Column

#### 実務経験を持っている専門家

専門家にはいろいろな役割があります。制度に詳しい人が必要なときもありますが、一方ではコストのことも頭においた意見が必要な場合もあります。どのような分野の専門家が必要かは、プロジェクトの内容によって様々です。都市デザインの専門家は、いつでも有効な意見を持ち、協議において活躍できると思います(もちろん、建築家にも相当数経験豊かな人がいます)。

専門家を固定するのではなく、テーマに応じて臨時的に加わる専門家の可能性を考えておきましょう。事務局は、なるべく多くの専門家リストを持ってほしいと思います。

国内でも、専門家の位置づけや協力体制、対応方法についても、柔軟な発想を持って取り組む事例が増えています。

## ポイント

- ・景観条例で位置付けられた**区域内にある要件を満たす案件を対象**に、必要に応じて「景観評価員」は、小田原**市長に景観に関する助言**を行う。
- ・景観評価員は、景観デザインレビューの場で事業者や設計者に、直接アドバイスを行うだけでなく、場合によっては**助言の内容を「評価書」**としてとりまとめ**市に提出**している。
- ・評価書は**条例に基づく重要な位置づけ**があり、市は評価書をもとに、事業者等と協議するための材料としている。
- ・景観評価員は、建築の分野だけでなく、ランドスケープや色彩、行政法など**多様な分野の専門家**が任命されており、その中から**案件に応じた専門家**が対応している。

協議の対象となった駐車場ビル。  
景観評価員の助言により、格子状の柔らかな立面が採用された。



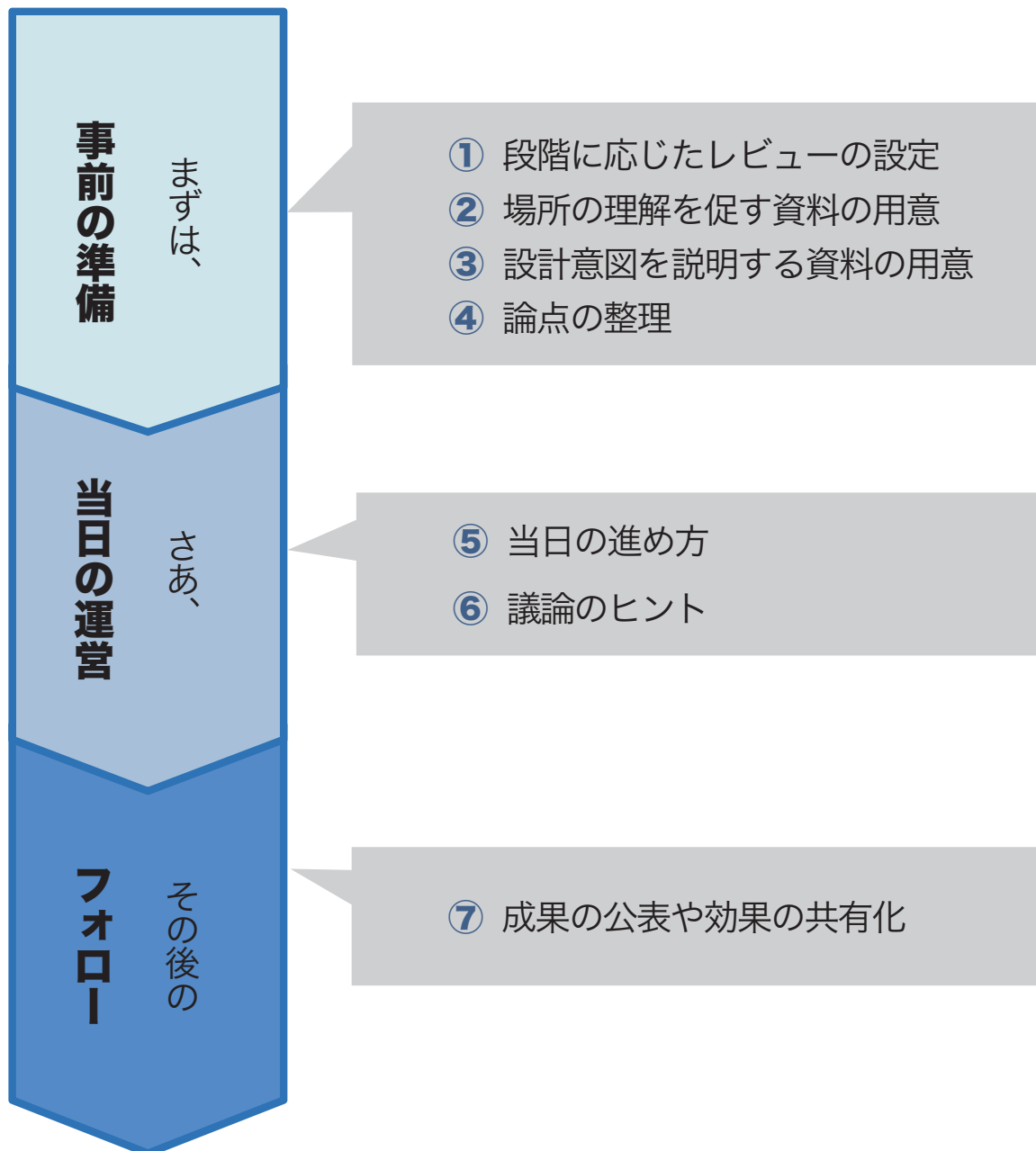
### 3. 景観デザインレビューを実践しよう



## おすすめの方法をご紹介します！

ここまで読み進めていただいた方のために、景観デザインレビューの具体的な進め方をご紹介します。

取り入れられるものから始めて、工夫しつつ独自の景観デザインレビューをつくりだしてください。

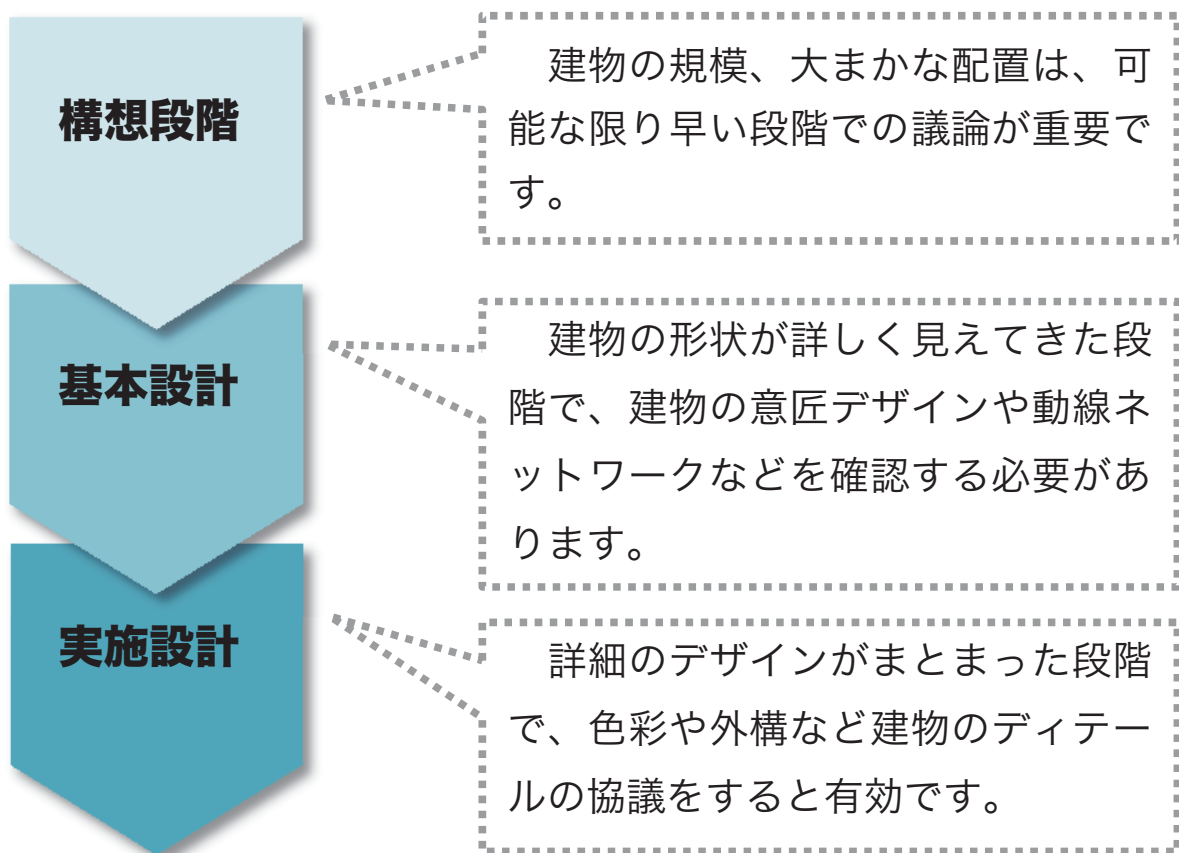




## ① 設計作業のどの段階で何をレビューするか

景観デザインレビューでの協議の結果をプロジェクトに反映するためには、設計作業の進捗状況にあわせた適切なタイミングでの実施が求められます。

### 設計の進捗状況に応じた協議議論のテーマ



複数回実施する場合には、前回の結果がどのように設計案に反映されたかを確認しながら、**議論**することも重要です。



## ② 地域を理解するための資料を用意しましょう

景観デザインレビューの場面では、プロジェクトの内容や敷地周辺に関する基本的な情報を短時間で効率良く理解する必要があります。

事務局となる自治体の担当者が、現地調査や既往の資料をもとに、必要な情報を前もって整理しておくことはとても重要です。理念編の12ページで示した情報を参考にしながら、下記に協議に必要な資料を整理したので、ご活用ください。設計者や事業者が用意しても良いので、調整しながら進めてください。できる限りの情報収集が協議の際に役立ちます。

### プロジェクトの対象敷地及びその周辺の現況

- (例)
- ・ 周辺の主要施設の立地や通りの状況
  - ・ 周辺の視点場から対象敷地を望んだ際の写真
  - ・ 歴史的資源などの地域らしさを表す写真・情報
  - ・ 周辺建物の高さの状況
- など



周辺の複数の眺望点から対象敷地を撮影

### 法的規制の位置付け

- ・ 用途地域や地区計画などの都市計画の規制内容
  - ・ 景観計画等の景観に関する規制内容
  - ・ 景観ガイドラインの内容
  - ・ 保安林などの都市計画以外の規制
- など

### 地域の歴史

- ・ 市区町村史の把握
  - ・ 古地図による市街地形成の変遷の把握
- など



## 景観デザインレビューレビューのタイミング といっても限界があります

マンション建設などに代表される事業用建築の場合には、実は、事業者が用地を取得する段階で、事業採算を検証するために基本計画レベルまで設計作業を進めていることが少なくありません。そうすると、計画の存在を行政側が把握した時点では計画内容が相当に具体化していて、事業者・設計者が景観デザインレビューの結果を受入れる余地はかなり小さくなります。

この問題は、つまるところ、景観デザインレビューの結果が一定の強制力を持ち、事業者・設計者はそのことを考慮して土地を取得する（例えば、土地購入時に「景観デザインレビューによって土地利用に影響が出た場合には土地価格を再協議する」といった一種の停止条件付き契約を締結する）という状況でなければ解決しないと思われれます。

そのような状況をつくり出すためにも、実効性のある景観デザインレビュー（その実施により建築の価値も周辺環境の価値も高まり、関係者が満足するような景観デザインレビュー）を積み重ねていくことが大切です。



マンション建設などの場合は、用地取得時に計画内容がかなり具体化していることが多い

### ③ 設計者に設計の意図を説明する資料を用意してもらいましょう

プロジェクトの内容や設計の思想や意図について、参加者で共有認識を図る必要があります。そのためには、設計者や事業者がプロジェクトの内容を分かりやすく説明するためのプレゼンテーション資料が必要となります。

平面図などの図面だけでなく、直観的に空間を捉えやすくなる模型の用意も重要です。



#### 図面

まずは、ここから

**平面図 立面図 断面図**



できれば、ここまで

**全体パース図**

#### 模型

**周辺を含むもの**

スケール 1/500~1/1000 程度



敷地の周辺も含めた広い範囲で模型を用意



敷地模型に、協議の対象となる街区の模型を追加

**周辺も含めた図面を用意**することで、地域全体の議論がしやすくなりますよ



## ④ 論点を整理しましょう

関連部局と事前に調整し、整理して専門家に事前にレクチャーを行ったうえで論点を整理できると、円滑に景観デザインレビューが進みます。

論点を整理するには、20～23 ページで示したヒントを参考にしてください。

景観デザインレビューの前に、**専門家と一緒に現地を確認**することも、当日の議論を円滑に進めるために効果的です。



### Column

#### 景観デザインレビューの場を公開するかどうか

景観デザインレビューの協議の場を広く地域住民などにも公開して議論するか、非公開として関係者だけが出席して議論するかどうかは、プロジェクトの性格や自治体の情報公開の基本的な考え方などを踏まえて、決めてください。

##### 非公開にした場合

- ・プロジェクトの早い段階で協議しやすくなる
- ・専門家と設計者が本音で協議できる
- ・協議の結果を地域に受け入れられにくい場合もある

##### 公開した場合

- ・地域で協議の結果を広く共有できる
- ・地域の景観や建物に対する関心を高めることができる
- ・協議の場の混乱を避けるために、専門家や設計者が発言を控えるおそれがある

## ⑤ 当日の進め方を考えましょう

景観デザインレビューの会場は、会議等で良く見られる机の並べ方ではなく、議論が盛り上がるように設営にすることをおすすめします。

議論のまとめ役（座長や委員長）は、とても重要です。当日の議論を活性化させたり、次回開催に向けて議論を発展させたい場合には、解決してほしい課題を具体的に明示し、その場で設計者や事業者に伝えると効果的です。

### 議論を盛り上げる設営

#### 動きやすい**座席**



模型や壁に貼った資料を自由に見るために、参加者が動きやすい座席の配置にすると良いでしょう。

#### 全員で共有できる**資料**



図面などのプレゼンテーション資料を会場の壁に貼ったり、プロジェクターで投影することで、全員で情報を共有することができます。

#### 空間を示す**模型**



模型を見ながら進めると、具体的な空間をイメージしながら議論を行うことができます。

短い時間の中で効率良く議論が進められるスケジュールを設定しましょう。景観デザインレビューは、1つの案件ごとに1時間半から2時間程度を目安に実施してください。

## タイムスケジュールの例

所用時間	内容
15分	<p><b>景観デザインレビューの趣旨説明</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 本日の進め方</li> <li>・ 出席者紹介</li> <li>・ 景観デザインレビューとは</li> </ul> <p><b>プロジェクト及び周辺の概況説明</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域の現況</li> <li>・ プロジェクトの対象敷地の現況</li> <li>・ 論点の確認</li> </ul>
15分	<p><b>プロジェクトの説明</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 設計内容や意図の説明</li> <li>・ 論点に対する説明</li> </ul>
45分	<p><b>議論</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 論点を踏まえた議論</li> </ul>
5分	<p><b>まとめ・総括</b></p>

事務局が会議の**趣旨**や、**論点の確認**をしましょう

設計者は**図面**や**模型**を使用しながら**設計内容**や**意図**を**説明**しましょう

20～23ページの**ヒント**を活用して**議論**を**活性化**してください

最後の**まとめ**が**大切**です！



## ⑥ 議論のためのヒント

景観デザインレビューの論点をどのように設定するか、「理念編」の13ページを参考にして、一つの例としてヒントを整理しました。

具体的なイメージがわからない時など、プロジェクトの内容がその地域にとって良いものか考える際に、活用してください。

### 街路ネットワークとの関係

#### 敷地周辺の街路ネットワークとの関係は良好ですか？

- ・ まちなみの歴史や特性を考慮した計画にすることは、敷地との街路ネットワークの関係を良好なものにする基本的な方法です。
- ・ 昔からの人々の流れ、行動ルートが、新しい計画においても生かされる計画を考えてください。

例えば、

- ・ 昔からの路地や小空間を再現することで、地域に親しみのある計画ができます。
- ・ 複数の敷地をまとめる再開発型の計画の場合でも、以前からの通路のルートを確保し、人の流れを大きく変えないことで、空間の変化を和らげることができます。

### 街区構成との関係

#### 周辺のまちなみの街区、敷地の規模に調和した計画となっていますか？

- ・ 計画の敷地の大きさを周囲の敷地と同じような規模にすることが、一般的には望ましいことです。
- ・ 新しい計画で、敷地が大きくなる場合でも、小さくなる場合でも、それぞれ周囲との連続性を考慮する必要があります。

例えば、

- ・ 整然としたまちなみにおける計画では、建物の道路沿いの高さを揃えることが景観の配慮として有効です。
- ・ 歴史的な地区での再開発計画等では、古い街区構成を活かしたり、伝統的な意匠を一部に取り入れることも有効です。

プロジェクト全体の方向性は、都市マスタープランや景観計画、中心市街地活性化計画などの計画の中にもヒントがありますよ。



#### ランドスケープへの配慮

**地域の植物の特性、敷地の周辺の緑地に配慮**がなされていますか？

- ・地域の緑・植物の特性をとらえた計画を心がけてください。
- ・敷地周辺の公園、緑地と隣接する場合は、そのつながりを考慮し、連続性を高めるデザインとしてください。

例えば、

- ・比較的大きな規模の計画では、公開空地や広場の配置を敷地周辺の緑地と連続したデザインにしたり、開放性を高めたりすることが、市街地空間の質を高めることにつながります。
- ・中庭や坪庭など小さな緑地も、周辺の風景になじむ種類や高さの樹木を配置することにより、効果的な景観デザインが可能になります。

#### 建物の用途と表情

計画は**地域の環境や個性に応じたもの**となっていますか？

- ・商店街や閑静な住宅地など、周辺の建物とのつながりに配慮が必要です。
- ・地域のシンボルになるような建物の場合は、地域意向に配慮することが重要です。

例えば、

- ・商店街では、道路に面した駐車スペースなどのデザインを工夫することによって、まちなみの一体感を壊さない計画となります。駐車場などを壁面後退よりも敷地の内部にとることによって、道路沿いの町家の連続性が維持される場合があります。
- ・大規模な開発では、建物の分棟化、分節化、あるいは前面の植栽の充実などにより、まちなみのつながりが確保できることがあります。

項目ごとの考え方を示したうえで、「例えば」として具体的にどのようにデザインに反映すればよいかも例示してあります。ただし、どの敷地でも当てはまるとは限らないので、良く考えて活用してくださいね。



#### 建物の高さ

### 周囲の建物との関係を考慮した建物の高さとなっていますか？

- ・計画を考える場合、周囲のまちなみとの調和が最も重要です。周囲のまちなみと揃えることが基本的な方法です。高い建物の計画の場合には、配慮が必要です。
- ・周囲の建物より高いことが計画される場合には、周囲の環境に配慮された建築計画を行うことが重要です。

例えば、

- ・道路沿いに低層部分を配置し、敷地の内側を高層化することにより、周辺景観へ一定の配慮が可能になります。高さについては、建物の分節化等の手法も有効です。
- ・道路の向かい側や公園などからの眺望に配慮して、建物を塔状化することで遠景などの眺望を確保することができます。

#### 建物の規模

### 建物の規模に応じた適切な配慮がなされていますか？

- ・建物の規模は事業者にとって重要な要素です。しかし、地域によっては住民の考え方と対立する場合があります。事業者、設計者には、その点の配慮が求められます。
- ・とくに、建物をセットバックしたり、建物の圧迫感を和らげるデザインの工夫は一般的に効果があります。

例えば、

- ・建物の圧迫感を和らげるデザインとして、目線レベルの壁面を周囲のまちなみの特性に合わせた外壁とすることなどはよくある方法です。地域により、伝統的な技術・手法による配慮も可能です。
- ・低層部をガラスなどの素材にして、透明感のあるデザイン、変化のあるデザインにすることもまちなみの個性を生み出す方法です。



## まさに**ふさわしい設え**となっていますか？

### <色彩>

- ・ 土壌や石・木材など地域固有の素材色が地域景観の色彩の基本であることから、地域や周辺の色環境に調和した色彩が安らぎをもたらします。
- ・ 建物は調和や対比といった色彩の組み合わせで見え方が変わります。周辺街区との関係性でも色彩の効果が大きく影響します。

例えば、

- ・ 建物の外壁や舗装材、意匠壁などに地元産の瓦材などを使用すると、自然環境が育ててきた色環境と融合した景観が得られます。
- ・ 新しい素材を使用した意匠デザインでは、対比の色彩による新しい市街地景観が考えられます。

### <植栽>

- ・ 植栽は快適な市街地環境・景観に最も重要かつ有効な要素と言えます。美観に加えて環境面での効果も高く、優先的に取り組む必要があります。
- ・ 地域の気候風土に適合した樹種を選び、維持管理にも配慮するほか、技術的な進歩が著しい屋上緑化や壁面緑化も検討に値します。

例えば、

- ・ 樹影が広がる広葉樹で広場や駐車場などを覆い日陰空間を増やすことは、環境にも優しい快適な市街地空間を生み出します。
- ・ 商店街や住宅地で小さな植込みや各種プランターを設け、参加型で草花を育てることなどもこれからの景観整備の方向です。

### <サイン>

- ・ 誘導サインや広告サインは、目的・機能とデザイン性が相反することも多く、専門性に基じた十分な配慮が求められます。
- ・ 景観上も非常に大きな要素となることが多く、また点字ブロックや音誘導などユニバーサルデザインの課題でもあります。

例えば、

- ・ 誘導サインは解りやすいデザインに統一し、広告サインは大きさや箇所数を決めて乱立させないなどの配慮が望まれます。
- ・ 視聴覚弱者への音環境デザインや、外国人への表記上の配慮などもこれからの社会に求められる広い意味のデザインです。

### <アート>

- ・ 景観デザインとして各種アートの導入が考えられます。地域の素材を活かしたものや地元のアーティストの作品なども有力な景観要素になります。
- ・ 彫刻や壁画などが一般的ですが、噴水、環境音、映像ほか、様々な現代アートなども豊かな景観デザインの要素として期待されます。

例えば、

- ・ ジャズの街に楽器の彫刻、地元作家のキャラクター、姉妹都市の壁画など、様々なアートの導入は市街地空間を演出します。
- ・ 大型液晶画面やLEDによる舗装デザインなどの新しい媒体は、景観デザイン上も重要な対象となりつつあります。

## ⑦ 成果と意義を共有しましょう

協議の結果を関係者と共有し、その内容を公表することは重要です。自治体のウェブサイト等を通じて情報発信することが、地域住民などへのPRや、景観デザインレビューの意義の理解を促し、ゆくゆくは地域の改善へとつながります。

設計案が修正された過程も公表することで、景観デザインレビューの意義がより伝わりやすくなります。

まずは、ここから  
協議の結果を**関係者と共有し、公表**



できれば、ここまで  
**修正前の設計案と最終の設計案**をあわせて**公表**

当初案



四谷見附交差点付近からの見え方は四ツ谷駅前の顔となる景観であることから、高層部のデザインの工夫による周辺との調和や、低層部の周辺と連続した街並み形成に配慮してほしいとの指摘があった

デザイン協議後の案



高層部の平面形状を八角形から多段のコーナー形状に変更し頂部形状も多段構成とすることで、細さの強調されたシルエットを表現するとともに、低層部は周辺の街並みと連続する高さに変更した

### 東京都の事例

資料：東京都ホームページ

## － 成功に導くための4つのポイント －

最後に、少なくともこれだけは気を付けておいてほしいというポイントを4つにまとめました。

### ①プロジェクトの検討の早い段階で協議を始める

プロジェクトの検討が始まったら、とにかく早い段階から景観デザインレビューにより協議を始めることで、作業の手戻りが少ないため議論の結果が反映しやすく、デザインの質を上げることに繋がります。

プロジェクトの検討は土地の取得段階から始まっています。大規模な土地の所有者の変更や土地利用が大きく変わる情報を早めにつかむことも重要です。

### ②対象敷地だけでなく、必ず周辺も含めて考える

地域全体を良くするためには、対象となるプロジェクトが検討されている敷地だけでなく、必ず周囲との関係がどうなっているのか確認しながら、多様な視点で設計の内容を考えることが大切です。

### ③地元の専門家や庁内での協力体制をつくる

上記の視点を良く理解していて、地域のことについて熟知している地元の専門家と協力体制を築き、行政内部での体制を整えることで、景観デザインレビューの場で、より有意義な協議を行うことができます。

### ④創造的な議論の場を目指す

景観デザインレビューは、設計者のデザイン案を非難する場ではありません。設計者と第三者である専門家が、同じ専門家としてそれぞれの知識や経験をもとに、“創造的”な議論を行い、よりよい建築デザインや景観デザインを目指すための場となることを目指してください。

**自分たちらしいやり方で  
やれることからやってみましょう！！**



## 景観デザインレビューに興味を持った方へ

景観デザインレビューに取り組んでみたいが、どのように進めて良いかわからないという自治体や地域の方がいましたら、「建築等を通じた良好な景観形成・まちづくり協議会」(連絡先 keikan\_dr@kenchikushikai.or.jp)まで、ぜひご相談ください。きっと、何かのお役に立てると考えています。

### 建築等を通じた良好な景観形成・まちづくり推進協議会って何？

建築の専門家により構成される建築関連団体と、景観形成・まちづくりの推進に積極的な地方公共団体が連携し、建築等を通じた良好な景観形成・まちづくりを推進することを目的に、平成21年に設立されました。

(公社)日本建築士会連合会、(公社)日本建築家協会、(一社)日本建築学会、(一社)日本建築士事務所協会連合会、(一社)日本建設業連合会  
福島県会津若松市、山形県金山町、千葉県香取市、福井県大野市、山口県宇部市、北海道八雲町、青森県黒石市、秋田県仙北市、山形県鶴岡市、埼玉県越谷市、千葉県館山市、東京都新宿区、東京都世田谷区、東京都目黒区、神奈川県川崎市、神奈川県鎌倉市、長野県小諸市、静岡県伊東市、三重県志摩市、京都府京都市、兵庫県神戸市、兵庫県加西市、岡山県倉敷市、島根県松江市、徳島県徳島市、佐賀県

**平成 28 年 10 月**

### 編集・発行

建築等を通じた良好な景観形成・まちづくり推進協議会  
(事務局 公益社団法人 日本建築士会連合会)

### 協力

国土交通省 住宅局 市街地建築課